

略 歴



井出匡則（いで まさのり）二等陸佐（旧陸軍中佐に相当）

1977年11月13日生まれ、現在46歳、1992年15歳で単身渡米し、ボストン大学国際関係学部を修了後、2000年4月に陸上自衛隊に幹部候補生として入隊した。

任官後、普通科（旧陸軍歩兵科）幹部として勤務、静岡県御殿場に所在する第34普通科連隊においては連隊本部第3科運用訓練幹部として市街地戦闘における対遊撃・ゲリラ戦の研究等を担当、その後、朝霞に新設された中央即応集団司令部防衛部において、空地特殊作戦幹部として新編された特殊作戦群の戦力化等を担当した。情報科新設に伴い情報科に職種転換し、熊本に所在する西部方面総監部の業務幹部、陸上自衛隊情報学校の戦術教官等を歴任、2016年3月より陸上幕僚監部において、第34代陸上幕僚長・岩田清文（いわた きよふみ）陸将、第35代陸上幕僚長・岡部俊哉（おかべ としや）陸将及び第36代陸上幕僚長・山崎幸二（やまざき こうじ）陸将の渉外官兼通訳官を務め、陸上幕僚長の防衛協力・交流を補佐した。

2019年3月統合幕僚監部異動後、引続き、第5代統合幕僚長・河野克俊（かわの かつとし）海将及び第6代統合幕僚長・山崎幸二（やまざき こうじ）陸将の渉外官兼通訳官をとして統合幕僚長による米国及び同志国との戦略対話及びハイレベル交流、並びに国際会議等への参加を補佐した。

2024年4月以降、目黒駐屯地に所在する陸上自衛隊教育訓練研究本部において、米国及び同志国との陸軍種連携推進等を図る防衛協力・交流を担当し、現在に至る。

この間、海外派遣任務として、2005年6月から2006年2月の間、第4次イラク復興業務支援隊の報道幹部としてイラク・サマーワにおいて勤務した他、2011年5月から同年11月の間、内閣府国際平和協力本部事務局に出向し、内閣府連絡調整員として国連による震災復興活動中のハイチ共和国において勤務した。

また、国内においては、2007年7月新潟県中越沖地震に伴う災害派遣において第1師団給水隊長として救援活動に従事した他、2011年3月東日本大震災発生後、日米共同トモダチ作戦において、米海兵隊への連絡調整幹部として米強襲揚陸艦エセックスに乗艦し、米第31海兵機動展開隊とともに気仙沼大島での救援活動を実施した。